

# スペイン語教育指針作成の試み

—PCIC 第 10 章「文化的指示対象」の研究と考察—

ヨーロッパ学科スペイン語圏専攻 江澤 照美

## 1. はじめに

本稿は日本国内の学習者を対象としたスペイン語教育、特に中上級レベルの教育指針作成を最終目的とした筆者の研究<sup>1</sup>の一部を構成するものである。ヨーロッパ共通参照枠の策定後、Instituto Cervantes（セルバンテス協会）は 2007 年に従来版を大幅改訂したスペイン語教育の参考指導要綱 *Plan curricular del Instituto Cervantes*（『セルバンテス協会のカリキュラム・プラン』、以後本稿では *PCIC* と略記する）を出版した。

参考指導要綱と述べたが、実質的に *PCIC* はヨーロッパ共通参照枠に準拠するスペイン語のカリキュラム作成支援ツールとしての利用すべきものであり、スペイン語教育の規範書ではない。教育機関やカリキュラム作成者は *PCIC* の中で言語学的または非言語学的な各項目が持つ目録 (*inventarios*) を参考にしてそれぞれの教育環境に適合したカリキュラムを作成することができる。

江澤(2013)は *PCIC* 第 9 章 *Nociones específicas* の目録から医療分野関係語彙リストの試案をまとめたものである。同章の目録はスペイン中央部の標準的なスペイン語から作成されているため、江澤(2013)の語彙リスト案も中南米で使われる語彙についての追跡調査をすることによって、中南米出身者が多い地域での医療スペイン語語彙集として利用可能になる。*PCIC* の目録は A1 から C2 まで 6 つのレベル別に提示されるので、入門段階から上級に至るまでの語彙リスト案を利用者自身が作成できる。

現在筆者が取り組んでいる教育指針づくりに *PCIC* 活用が必要不可欠であることは言うまでもない。しかし、汎用性が高いけれども利用方法が分かりづらい *PCIC* については、その特性も理解しながら応用の可能性について探る必要もある。特に文化的要素を扱った *PCIC* の第 10 章以降については目録の分類がそれ以前の章の大半で行われている 6 つの共通参照レベル別の分類とは異なる。

本稿では特に文化的指示対象を扱った第 10 章に焦点を当て、日本の大学で実施される中上級レベルのスペイン語教育のうち言語運用能力向上を目的とした語学関係科目の指針作成にあたり、同書の目録の有効な活用方法の可能性を探ることを主たる目的とする。

## 2. 目録と分類

*PCIC* はイントロダクションと目録をそれぞれに持つ 13 の章から構成される。構成の全体像は *PCIC* 第 1 巻(A1-A2 レベル)に *Plan general de la obra* として示されている。<sup>2</sup> *PCIC* の *Introducción General* の執筆者で学術機関部門の García Santa Cecilia 氏の解説によると、第 2 章から第 4 章までは文法構成要素、第 5 章

から第7章までは語用論・談話構成要素、第8章と第9章は概念要素（いわゆる語彙要素）、第10章から第12章は文化構成要素で、第13章は学習構成要素としてまとめられ、それぞれの構成要素は相互に関連している。

各章の目録については江澤(2010)でも言及しているが、章ごとの目録の分類について以下一覧表として示す。<sup>3</sup>

PCICの章名	目録の分類規準
1. 全体的目標	1) 社会的存在…共通参照レベル(A1~C2) 2) 異文化話者 … 3段階(モジュール) 3) 自律的学習者 … 3段階(モジュール)
2. 文法	共通参照レベル (A1 ~C2)
3. 発音と音韻	3つのステージ (A, B, C)
4. 正書法	共通参照レベル (A1 ~C2)
5. 機能	共通参照レベル (A1 ~C2)
6. 語用論上のストラテジー	共通参照レベル (A1 ~C2)
7. 談話の種類と産出テキスト	共通参照レベル (A1 ~C2)
8. 一般概念	共通参照レベル (A1 ~C2)
9. 特殊概念	共通参照レベル (A1 ~C2)
10. 文化的指示対象	3段階 (モジュール)
11. 社会文化的な知識と行動	3段階 (モジュール)
12. 異文化適応能力と態度	区分なし (モジュール)
13. 学習手順	区分なし (モジュール)

一覧表で明らかなように、13の章はすべて目録を持つがその分類基準は異なっていて、A1からC2までの6つの共通参照レベル区分をおこなっている章とそうでない章がある。

第3章の発音と音韻については細かなレベルを定めるのが容易ではないという理由で、その目録はAからCまでの3つのステージ(etapas)に分類されている。<sup>4</sup>

第1章については学習者を1) el alumno como *agente social* (社会的存在) 2) el alumno como *hablante intercultural* (異文化話者) 3) el alumno como *aprendiente autónomo* (自律的学習者) に分類している。

1)の社会的存在としての学習者の側面は、社交的なやりとりの状況やテキストに関わる言語使用と関連するがゆえにステージやレベルが進むにつれて向上すると考えられ、その結果として1)に関する目録は6つの共通参照レベル別である。

他方で、第1章の2)と3)については第10章や第11章と同じく共通参照レベルではない、モジュール式のレベル区分、すなわち3つの段階(fase)による分類記述がおこなわれている。それぞれの段階は *Fase de aproximación* (近接段階)、*Fase de profundización* (深化段階)、*Fase de consolidación* (統合段階)と名付けられて

いる。

そして、第 12 章と第 13 章は第 10 章・第 11 章と同様にモジュール式であるがレベル別の区分がなく、A,B,C の 3 巻ともその目録の記述内容は同一である。

第 10 章から第 13 章までの章で扱われた内容、すなわち文化的構成要素や学習構成要素はセルバンテス協会の 1994 年版 *Plan curricular* には明確な形では扱われていなかった。ヨーロッパ共通参照枠の導入によりそれ以降のスペイン語教育のカリキュラムの中に文化や学習についての要素を意識的に織り込むことが求められるようになったのである。実際に近年スペインで発行された ELE 教育用教科書のユニット別のインデックスには機能や文法、語彙などのほかに文化の記述も加わっている。

日本ではヨーロッパ共通参照枠が 6 つのレベルの共通参照レベルを中心に語られることが多いが、共通参照枠の根底にある複言語主義や複文化主義を理解するにあたっては共通参照レベルの尺度では測りきれない概念について研究を進める必要がある。目録の分類を共通参照レベル別としていない *PCIC* の第 10 章以降の研究を進めるのはそれなりに意義があると言える。ただし第 10 章から第 13 章までの内容も多様性に富んでいるため、本稿ではまず文化的構成要素としてまとめられる第 10 章に焦点を当てその特性とカリキュラムへの応用性について考察をおこなう。

### 3. *PCIC* 第 10 章「文化的指示対象」

*PCIC* 第 10 章の目録に採用されている段階(fase)は共通参照レベルとは連動しないので、この章の目録の記述は A,B,C 巻共通である。文化的な諸要素が 3 つの段階によって分けられている。この段階は難易度と同義に解釈しうる側面を持っているが、*PCIC* では 3 つの段階が交換可能なモジュールとみなされているため、カリキュラム作成者はそれぞれの教育環境に応じて 3 つの段階のいずれの要素をも利用できる。段階別の目録の内容の概略は本稿巻末資料としてまとめた。<sup>5</sup>

共通参照レベルによる分類がおこなわれている章と同じく、特定のレベルのみ例が挙げられている項目がある。詳細は巻末参照のこと。

*PCIC* 第 10 章の目録はスペインの文化のみならずイスマノアメリカ諸国の文化も扱っていて、それにより両地域に共存する文化の様々な特徴を知ることができる。他方で、スペイン語圏は広大であり、その文化は非常に豊かで多様性に富んでいるので、扱う事柄の選択基準や扱い方について決めておく必要についても同章のイントロダクションで述べられている。<sup>6</sup>

目録で取り扱われている内容を概観すると、文化のみならず社会や歴史の分野、すなわち地域研究の範疇に入るジャンルも取り扱われていて、日本のスペイン語教育界の中でも特にスペイン語を専攻する教育機関にとって関連の深い学習項目が列挙されている。そして、*PCIC* ではこのスペイン語圏の国々に関する文化的な知識を「百科事典的」なタイプのものであるとしながらも、すべてを網羅し詳細を列挙することよりも普遍的で多様性を持つひとつの知識へのアクセスとして理

解するよう読者に求めている。<sup>7</sup> ただし、教育上の必要から文化について語る際には特に教師は用心深くなるもので、これは実際に筆者自身もしばしば教室の場でおこなっていることであるが、スペイン語圏の食事の時間や店の営業時間などについて言及するときには、基本的にそれが本やネットによる知識であったり、あるいは現地での実体験によるものであることをあらかじめ断った上で受講生の前で話をする。スペイン語圏があまりに広大な地域であるがゆえに、教師にとってスペイン語圏全般の知識を披露するのはほとんど困難なことであろう。

*PCIC* 第 10 章イントロダクションによると、文化的指示対象について人が語る時の態度としてあらゆる物事を詳細に紹介することから逃げるのは問題がないようで、教師はあるコミュニティの文化的な遺産を形成するに至った文化的指示対象の一般的な見方を提供するために文化について語るという方法を取り続けるほうがむしろ望ましいと言える。

同章の目録に収録されている諸例は、「事実に基づいた(factual)」知識のほか、信条や価値観、表象、シンボルなどとされている。<sup>8</sup> 文化に関する知識と言えば、先に引用した「百科事典的」なタイプとして認識される「事実に基づいた」知識がイメージされるが、*PCIC* の目録はそれ以外の信条や価値観、表象、シンボルにも注意を喚起している。イントロダクションの解説によると、信条や価値観については、特定の出来事や現実が生み出す結果と関係があり、のちにそれらと同じ文化として共有する人々が登場する。

以上のことから、例えば河川の名前に関して、スペイン語の学習者は特定の国の主要河川の名前を覚えるだけでなく、*río* という概念がスペイン語圏諸国のそれぞれの環境の中で呼び起こす共同体ごとの差異や象徴的な意味、暗示力について知ることの重要性が提起されている。また、様々な分野の表象やシンボルへの言及（たとえばある国で知名度の高い企業や主要な政党のロゴタイプなど）も *PCIC* の目録にはしばしば見られる。

*PCIC* の中で文化的構成要素の一部をなすこの第 10 章で提示された目録は、同書の他の目録と同じく、利用者がそこからより詳細で整理された最善のカリキュラム作成のための叩き台として存在する。日本でおこなわれるスペイン語教育においてスペイン語圏の文化的要素を取りあげる場合、スペインとイスマノアメリカのどちらかにしか言及しないということはあまりないかもしれないが、教師の専門分野や利用する教科書類の内容、両地域での経験および両地域への関心などによって、どちらかの地域についてより詳しい情報提供がされることがある。また、スペイン語圏出身の外国籍住民が多く居住する地域では、異文化理解のための教育と関連づけられた日本とスペイン語圏の文化の違いについて教師が言及する必要性が生じるかもしれない。言語学的な要素を中心に編成されたスペイン語教育カリキュラムの中に文化的な要素を取り入れるにあたっては、第 10 章の目録参照だけにとどまらず、第 10 章と共に文化次元の構成要素を形成している第 11 章「社会文化的知識および態度」や第 12 章「異文化間能力と異文化受容態度」の目録を参照しつつ、カリキュラム作成のための要素選抜をおこなう必要がある。

第 10 章目録の分類基準である 3 つの段階について *PCIC* が説明するところによ

ると、基本的に普遍性(*universalidad*)の大小とアクセシビリティ(*accesibilidad*)の大小が関与していて、普遍性に関して言えば、*Fase de aproximación*では普遍性が大きく、*Fase de consolidación* (統合段階)に至ると小さくなる。アクセシビリティに関しては、*Fase de aproximación*のほうがアクセスするのが容易で、*Fase de consolidación* (統合段階)ではアクセスがしにくくなる。<sup>9</sup>

目録の分類例を見ると、世界的にその存在を認知されているスペイン語圏の人物や事物、出来事などはどちらかと言えば *Fase de aproximación* に例が挙げられることが多く、その国において重要だったり知名度が高い場合は、*Fase de profundidad* に分類される傾向が見られる。第 10 章イントロダクションでは絵画の分野で *Fase de aproximación* における例としてベラスケスやピカソの名前が挙がっていた。<sup>10</sup> もちろんこれはあくまでも試案としての例であり、日本国内のスペイン語教育の場では、ピカソ、ダリ、ミロを知名度の高い芸術家としてまず取り上げることを日本の多くの教育者は考えつくかもしれない。このことは、日本語を外国語として学ぶ学習者対象の日本語教育の場で教えるべき日本の主要都市名に置き換えて考えればより理解しやすくなる。*Fase de aproximación* において首都の東京と並んで世界的に認知されている京都をまず取り上げることになる。そして *Fase de profundidad* において、国内の主要都市として大阪・横浜・名古屋など、歴史的社会的な大事件との関連で広島・長崎・福島などもリストに加えることになるだろう。

外国語学習や教育に関連する文化へのアクセシビリティについては書籍やインターネットの利用も手段として含めていることや、スペイン語圏のみならず学習者の出身国における文化的な産物や現実などの出現頻度の考慮も第 10 章イントロダクションに明記されていて、*PCIC* が世界中の様々な場所でおこなわれているスペイン語教育の多種多様な形態や可能性に対応できる書を目指して編纂されていることがわかる。<sup>11</sup> ところで、インターネットにより異なる文化を持つ地域やそこに居住する人々、事物へのアクセシビリティは年々容易になっている。しかも、それで得られる情報の精度は向上し、取得可能な情報の範囲も拡大した。以上のような事実を考慮すると、*PCIC* 第 10 章の目録からカリキュラム作成者が選択し、吟味する文化的指示対象の例は、時の流れと共に出現する新たな人物、事物、出来事およびそれらへの評価と共に随時更新される必要がある。

さらに外国語学習や教育において文化知識が非常に広範囲にわたるものであるがゆえに、学習者はこれらの知識をより深く習得するには現地に滞在したり、文学作品や歴史を扱った書物などを読んだり、専門家のレクチャーを受けたりすることが必要不可欠になる。ある分野について *Fase de aproximación* から *Fase de profundidad*、さらには *Fase de consolidación* の知識を学習者に獲得させる、特に最終的に学習者の自律学習によって *Fase de consolidación* まで到達させるためのしくみを考えることが教師の課題となる。

#### 4. セルバンテス協会のカリキュラム例

この項では、*PCIC* の中で言語学的構成要素の規準として設定された 6 つの共通

参照レベルとは必ずしも連動しない、第 10 章以降の規準すなわちモジュール式の 3 つの段階についてセルバンテス協会のプランニングの基本的な考え方を紹介する。

モジュール式であるということは、目録で提案されている項目のどれかが交換可能であることを示す。もちろん、Fase de aproximación, Fase de profundidad, Fase de consolidación の間には段階性が存在するが、たとえば Fase de aproximación の項目は A レベルに、Fase de profundidad の項目は B レベルに、Fase de consolidación は C レベルにて並行的に扱う必要はない。ただし、PCIC はそのような扱いをすることをけっして禁じているわけではない。

これを仮に [分類案 1] として第 10 章の項目を整理すると以下のようなになる。

[分類案 1]

- A レベル → 第 10 章目録のすべての項目の Fase de aproximación を扱う
- B レベル → 同項目の Fase de profundidad を扱う
- C レベル → 同項目の Fase de consolidación を扱う

しかしながら、それ以外の組み合わせも可能であり、PCIC 第 1 章の *Introducción General* において García Santa-Cecilia は第 10 章「文化的指示対象」の目録を例として以下のような組み合わせ例を示唆している。<sup>12</sup> これを [分類案 2] とする。

[事例案 2]

- A レベル → 「1.1 自然地理学 / 1.2. 住民 / 1.3. 政府と政治 / 1.4. 領土編成と行政機構」の各 3 つの Fases を扱う
- B レベル → 「1.5 経済と産業 / 1.6. 医療・衛生 / 1.7. 教育 / 1.8. マスコミ / 1.9. 交通機関 / 1.10. 宗教」の各 3 つの Fases を扱う
- C レベル → 残ったもの、すなわち「1.11. 言語政策 / 2. 昨今の出来事と主要人物 / 3. 文化的産物や創造」の各 3 つの Fases を扱う

別の分類例として以下のような提案もされている。[分類案 3] とする。

[分類案 3]

- A レベル → 「1.1. 自然地理学 / 1.2. 住民」の Fase de aproximación, Fase de profundidad を扱う
- B レベル → 「1.1. 自然地理学 / 1.2. 住民」の Fase de consolidación を扱う

García Santa-Cecilia の提案では C レベルについての言及はないが、C1 や C2 レベルの教育で取り扱う内容は教育機関や学習者のニーズによって相当多様化し

てくることが予想されるので、Bレベルで十分取り上げられなかった項目をCレベルで扱うという方法が考えられる。筆者はGarcía Santa-Cecilia氏によるセルバンテス協会主催のカリキュラム関係の講座を受講した経験を持つが、同氏の提案にも折衷的な分類案が提示されている。すなわち、A, B, Cレベルと3つのFasesを並行させたり、あるレベルで3つ全部のFasesを扱ったりするなど、項目ごとに扱いを変えている。当然、できあがるカリキュラムに示される項目は一見複雑に見えるが、入門レベルから上級レベルまでのスペイン語教育を実施する教育機関にこそこのようなカリキュラム編成案が必要とされるはずである。

## 5. まとめに代えて

本稿ではPCIC第10章「文化的指示対象」の目録やこのような目録案を作成するに至ったセルバンテス協会の文化的要素の取り扱い方についてその詳細についてまとめ、日本のスペイン語教育、特に入門レベル以上の教育をおこなう教育機関においてPCICの文化次元の提案を現実の教育やカリキュラムに応用する可能性について考察した。第10章で取り扱われている各項目を概観する限り、またそれぞれの項目の中で挙げられている諸例を見る限り、PCICは1年か2年でその教育を終えてしまう日本の第二外国語としてのスペイン語教育よりは、むしろ在学中に学生の留学も視野に入れた教育をおこなう専攻教育の指針を考える上で有効な資料であることが明らかとなった。

今回扱った問題は、ヨーロッパ共通参照枠のなかで「言語学習と言語教育」について扱った章、特に6.1.3の「複言語能力と複文化能力」に深く関わる。

一般的に学習者は複言語能力と複文化能力が一致しないのが普通の状態であり、また両方の能力とも本質的に変化すること、しかし、そのような不均衡や変化はけっしてマイナスの意味を持たず、「大多数の場合、むしろそれは、アイデンティティーに対する意識を高めることに貢献しているのである」<sup>13</sup>というポジティブな解釈が共通参照枠によって与えられていることに注目すべきであろう。

それ以外にもヨーロッパ共通参照枠は、言語をひとつだけ学習して、ひとつの外国文化とだけ接触すると、ステレオタイプや先入観は弱まるよりかえって強化されることが珍しくないという考え方のもとに複数の言語を知る必要性を説き、複数の言語や文化に接して学習者が多様な経験を積むことで学習能力は豊かになると評している。<sup>14</sup>

外国語教育の中で文化を取り扱うための方法に関する研究や参考にするための事例集はまだまだ不足している。筆者自身もヨーロッパ共通参照枠の概要を知ったことでこのテーマへの関心を深めてはいるが実践不足は否めない。しかしながら、2014年4月より9月まで週3回担当したNHKラジオ講座入門編においてヨーロッパ共通参照枠A1.1レベルに相当する講座計画案を練るにあたり、毎月発行された講座テキストにはその週に扱う文化項目を必ず入れることにした。当初各放送ごとに文化テーマを設定することを試みたが、機能的なキーフレーズ中心の入門講座ではその日のフレーズやスキットと合致したものを入れ込むことは難しく、週単位での文化テーマ設定に変更した。以下、4月号テキストの内容を例とし

て出すが、ここで扱った文化はスペイン語のあいさつのことばやスペイン語圏の人の名前のような入門レベルらしい内容のものもあれば、スキットの内容に合わせたので、ボランティア通訳や仕事上の人間関係など通常入門レベルで扱うことが予想されないものもある。この講座ではスキットの舞台を日本に設定したため、扱った文化には異文化理解に関わる内容のものも含まれることになった。<sup>15</sup>

## 「みんなのスペイン語」キーフレーズ

CEFR(ヨーロッパ共通参照)レベル A1.1

4月 あいさつと紹介から始めよう		
第1週	あいさつができる	<文化：スペイン語のあいさつのことばと慣習、スペイン語圏の人の名前(1)>
Lección 1	時間帯に合わせたあいさつをする	Buenos días, おはよう(ございます)。
2	初対面のあいさつをする	Mucho gusto, はじめまして。
3	別れ際のあいさつをする	Hasta luego, またあとで。
第2週	自己紹介ができる	<文化：スペイン語圏の人の名前(2)、ボランティア通訳>
Lección 4	名乗る	Yo soy Yumi Kato, 私は加藤由美です。
5	国籍を述べる	Yo soy japonés, 私は日本人です。
6	職業を述べる	Soy enfermero, 私は看護師です。
第3週	相手がどんな人か聞ける	<文化：呼称, túとusted(1), ポリビアとパラグアイ>
Lección 7	スペイン語を話すか聞く	¿Usted habla español? あなたはスペイン語をお話しになりますか?
8	名前を聞く	¿Cómo se llama usted? あなたのお名前は何というのですか?
9	出身地を聞く	¿De dónde es usted? あなたのご出身はどこですか?
第4週	一緒にいる人を紹介したり、紹介された相手と交流できる	<文化：túとusted(2)、仕事上の人間関係、人における習慣>
Lección 10	一緒にいる人を紹介する	Este es Luis Flores, こちらはルイス・フローレスさんです。
11	相手の出身地を好きだと言う	Perú es mi país favorito, ペルーは私の好きな国です。
12	感謝の気持ちを伝える	Muchas gracias, どうもありがとうございます。

このようなささやかな実践ではあるが、現在多くのスペイン発行の ELE 教材でおこなわれているように、文化的要素をスペイン語教育のシラバスの中で明示的にあらわすことには意義があると筆者は考えている。

本稿の考察の中心は *PCIC* 第 10 章に限定したが、続く第 11 章以降の各章の研究も早急に進め、*PCIC* の文化次元についての理解を深めていきたい。

### 注

- 1) 科学研究費助成事業・基盤研究(C) 課題番号 25370640 「スペイン語の自律学習支援の研究—中上級スペイン語教育の指針づくり」(研究代表者 江澤照美)
- 2) *PCIC* 第 1 巻(A1-A2 レベル) pp.67-70。
- 3) 江澤(2010)のうち特に pp.216-218, p.220, pp.223-225.を参照。
- 4) García Santa-Cecilia (2007) pp.43-44.
- 5) 訳は筆者による。個々の具体的用例は割愛した。
- 6) *PCIC* 第 1 巻(A1-A2 レベル) p.365。以下、本稿 3.では *PCIC* 第 10 章のイントロダクションを参考としている。*PCIC* では 3 巻とも第 10 章は文章が同一内容であるが、各巻のページ数が異なるため、第 2 巻、第 3 巻の第 10 章の該当ページは異なることをお断りしておく。*PCIC* のテキストは Centro Virtual Cervantes にも存在するがネット版の PDF ファイルなのでこれにはページの



記載がない。

- 7) *PCIC* 第 1 卷(A1-A2 レベル) p.366。
- 8) *PCIC* 第 1 卷(A1-A2 レベル) p.366。
- 9) *PCIC* 第 1 卷(A1-A2 レベル) p.367。
- 10) *PCIC* 第 1 卷(A1-A2 レベル) p.368。
- 11) *PCIC* 第 1 卷(A1-A2 レベル) p.368。
- 12) García Santa-Cecilia (2007) pp.42-43.
- 13) 吉島・大橋他(2004) p.147 からの引用。
- 14) 吉島・大橋他(2004) p.148.
- 15) 表は江澤(2014) pp.70-71 「「みんなのスペイン語」 キーフレーズ」のうち 4 月放送分を抜粋。

#### 参考文献

- 江澤 照美(2010) 「ヨーロッパ共通参照枠とセルバンテス協会のカリキュラムプランー日本のスペイン語教育への応用ー」『イスパニカ』54号、日本イスパニヤ学会、pp. 211-231。  
[https://www.jstage.jst.go.jp/article/hispanica/2010/54/2010\\_54\\_211/pdf](https://www.jstage.jst.go.jp/article/hispanica/2010/54/2010_54_211/pdf)
- (2013) 「(資料)*PCIC* 語彙目録に準拠したスペイン語の医療分野関係語彙リスト」『ことばの世界』5号、愛知県立大学高等言語教育研究所、pp.127-146。  
<http://www.for.aichi-pu.ac.jp/gengoken/link/nenpou/ことばの世界-No5.pdf>
- (2014) 『まいにちスペイン語』2014年9月号、NHK出版。
- García Santa-Cecilia, Álvaro (2007) “Introducción general” en *Plan curricular del Instituto Cervantes: Niveles de referencia para el español*, Tomo I (Niveles A1-A2), Biblioteca Nueva, pp.11-45.  
[http://cvc.cervantes.es/ensenanza/biblioteca\\_ele/plan\\_curricular/introduccion.htm](http://cvc.cervantes.es/ensenanza/biblioteca_ele/plan_curricular/introduccion.htm)
- Instituto Cervantes (2007) *Plan curricular del Instituto Cervantes: Niveles de referencia para el español*, 3 tomos, Biblioteca Nueva.  
[http://cvc.cervantes.es/ensenanza/biblioteca\\_ele/plan\\_curricular/default.htm](http://cvc.cervantes.es/ensenanza/biblioteca_ele/plan_curricular/default.htm)
- 吉島茂／大橋理枝他訳編(2004) 『外国語教育Ⅱ 外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠』、朝日出版社  
[http://www.dokkyo.net/~daf-kurs/library/CEFR\\_juhan.pdf](http://www.dokkyo.net/~daf-kurs/library/CEFR_juhan.pdf)

[巻末資料] *PCIC* 第 10 章「文化的指示対象」目録

- ※ FA = Fase de aproximación (近接段階)
  - FP = Fase de profundización (深化段階)
  - FC = Fase de consolidación (統合段階)
  - ※ 具体的な例はすべて割愛した。
- 

## 1. スペイン語圏の一般的知識

### 1.1. 自然地理学

1.1.1. 気候 [FA 季節、度数の使用 / FP 祝日と祝祭 / FC スペイン語圏の気候帯]

1.1.2. 地理的な特徴 [FA 土地の起伏、スペイン語圏の人々にとっての川の問題の違い、スペイン語圏の人々にとっての平野の問題の違い / FP 土地の起伏(川、湖、氷河、滝、湾、岬、小湾、火山、平野、台地、砂漠、山脈、海峡 / FC 山頂、山、滝、デルタ地帯と河口、海峡、高原、マングローブ林) ]

1.1.3. 動物相と植物相 [FA なし/FP スペイン語圏諸国の動物相 (スペイン語圏諸国・地方・都市の象徴的な動物相、スペイン語圏諸国の植物相、スペイン語圏諸国・地方・都市の象徴的な植物相 / FC 絶滅危機種や保護対象動物、長所や欠点を言うために動物名を代称として使うこと、聖像画や民間伝承への動物の反映]

1.2. 住民 [FA エスニック少数集団、インディヘナの重要性 / インディヘナ民族の典型的な服装 / FC 先コロンブス期の諸文明、スペイン語圏諸国の20世紀・21世紀の民族移動]

### 1.3. 政府と政治

1.3.1. 国家権力と制度 [FA 政治システム、国家権力や制度のシンボル / FP 社会・政治生活において議会の議論が占める重要性和位置づけ / FC スペイン語圏諸国の憲法、国家の中での分権(行政権・立法権・司法権)、伝統の存続]

1.3.2. 権利や自由、保証 [FA なし / FP 市民の権利と保障(憲法が定める権利、人権や自由侵害に対する社会の態度ふるまい / FC スペイン語圏諸国の民族マイノリティの権利保障、民族・消費者・読者の権利擁護者の姿、労働法、組合運動]

1.3.3. 政党と選挙 [FC 選挙キャンペーンとプログラム、再選の概念、市町村選・自治州選、立法期、政党とイデオロギー (ロゴタイプや略号) ]

### 1.4. 領土編成と行政機構

1.4.1. 領土・行政区画 [FA 管轄内の典型的な料理、管轄内の民族的な祝祭 / FP スペイン語圏諸国の領土に関する制度、政府機関と末端組織、文化的な気質、管轄内の典型的な飲み物、原産地証明表示 / FC スペインの自治州政府機構と末端組織 (スペインの自治州憲法)、連邦州

(イスパノアメリカの連邦州憲法)、領土区画の上の首都、ナショナリスト運動－歴史的ルーツ]

1.4.2. 首都、市町村 [FA スペイン語圏の国の首都（代表的な場所）国際的に認知された都市（歴史・芸術または文化的に興味深い場所、傑出した出来事）／ FP スペイン語圏諸国の重要な都市、ユネスコ世界遺産指定都市 ／ FC スペイン語圏諸国の首都（首都であることとむすびつけられた考え方やステレオタイプ）、首都の概念の違い(県の概念とむすびつけられた考え方やステレオタイプ)、県の概念と県であること]

1.5. 経済と産業 [FA スペイン語圏諸国の度量衡システム、スペイン語圏の国々の貨幣 ／ FP スペイン語圏諸国の主要な経済資源(主要な工業地帯、主要な農業牧畜生産地帯 ／ FC 商法と自由貿易協定（財政システムと税のタイプ、スペイン語圏諸国の主要な企業組織(重要な指導者と企業家)、主要なサービス会社(光熱、電気、水道)、ロゴタイプと略号]

1.6. 医療・衛生 [FA 衛生システム ／ FP 国際的に認知されたスペイン語圏諸国の医師、スペイン語圏諸国で生理学と医学でのノーベル賞受賞者 ／ FC スペインやイスパノアメリカの公衆衛生と民間衛生（スペイン語圏の主要な病院や診療所、民間保険や相互保険、衛生システムと関係がある機関の略号）、代替医療と補完医療、診療補助、スペイン語圏での医療関係の主な出来事]

1.7. 教育 [FA 教育制度、教育サイクル、スペイン語圏諸国の代表的な大学（ロゴタイプと略号）／ FP スペインやイスパノアメリカでの大学入試、語学教育（現代社会において言語の知識に与えられる意味）、学位(社会において学位が占める重要性や位置づけ、大学院の課程と学位)、大学生活と関係するシンボル、異文化教育に与えられる意味 ／ FC 通信制大学における教育(現在の社会において通信教育が占める重要性と位置づけ)、特殊支援教育(特殊支援教育機関)、移民教育、外国での教育(スペイン語圏の他の大学との交流協定)、奨学金(研究調査のための奨学金、民間団体の奨学金、外国留学用奨学金)、単位認定と認可(国や教育機関間での証明のやりとり)、スペイン語圏諸国にある研究機関]

1.8. マスコミ

1.8.1. 印刷物 [FA スペイン語圏諸国の主要な新聞 ／ FP スペイン語圏諸国の新聞によくあるコーナーや付録、国際的に認知されている有名な新聞 ／ FC 自治州や地方ローカルで一般的な情報が得られる新聞、スペイン語圏諸国で経済や商業について知名度がある専門分野の新聞、スペイン語圏諸国で科学・医学・地理学・建築・経済について知名度がある専門雑誌、スペイン語圏諸国で人気があるゴシップ誌、人気があるコラム執筆者、主要なマスコミ団体]

1.8.2. テレビとラジオ [FA 多くの視聴者を持つテレビチャンネル(ロゴタイプと略号)、多くのリスナーを持つラジオ局 ／ FP 歴史のあるテレビ番組 ／ FC スペインとイスパノアメリカのラジオ・テレビ・新聞の

宣伝広告(宣伝広告フェスティバル)、著名なテレビやラジオのジャーナリスト]

## 1.9. 交通機関

### 1.9.1. 長距離輸送：飛行機・列車・船

空路輸送 [FA 重要な国内空港と国際空港、航空会社(ロゴタイプと略号) / FP 重要なチャーター便航空会社]

鉄道網 [FA スペイン語圏諸国の鉄道網(ロゴタイプと略号) / FP 長距離列車、国内の鉄道と高速鉄道、代表的な鉄道駅 / FC 地方列車と近郊列車]

水上輸送・海上輸送 [FA スペイン語圏諸国の代表的な港、重要な航路 / FP 中米でパナマ運河が占める重要性と位置づけ、共通のアイデンティティを形成するものとしての海に与えられる意味、通過する場所のアイデンティティや特殊性の形成において川が占める重要性や位置づけ / FC 主要な航路、港町の概念とむすびつく意味、ヨットハーバー、船の建造：重要な造船所、海や川での大惨事]

1.9.2. 都市交通および都市間交通 [FA 都市交通網(大量輸送、街によって異なる地下鉄のアイコン) / FP 代表的なバス駅 / FC 主要なバス会社]

1.9.3. 自動車専用道路による輸送 [FA 高速道路網(アメリカ大陸の西半球の諸国をつなぐパンアメリカン高速道路網が占める重要性と位置づけ) / FP 国道、高速道路、自動車専用道路、交通安全 / FC 高速道路網の資金調達：通行料、高速道路網の管理統制機関]

1.10. 宗教 [FA メジャーな宗教 / FP 信仰に与えられる意味：スペイン語圏諸国における社会的な含み / FC 宗教上・えせ宗教の示威行進、先コロンブス期の宗教や神(先コロンブス期の神々の表象)、民族宗教上の聖像彫刻、祈禱師の表象と神]

1.11. 言語政策 [FA 公用語と準公用語、言語の保護と推進を目的とする公的機関や組織、言語と文化の普及のための公的機関や組織 / FP 公用語と準公用語の使用範囲、スペイン語会議、メジャーな言語とマイナーな言語 / FC 言語政策に関する政府や公的機関の行動、スペインの二言語併用自治州における教育政策、言語と領土に関するアイデンティティの関係]

## 2. 昨今の出来事と主要人物

### 2.1. 歴史・伝説上の出来事や人物

#### スペイン語圏の歴史上の画期的な出来事

[FA スペイン語圏諸国の歴史上の時期に主として関わるもの(スペイン語圏諸国の歴史上の時期に主として関わる文化・芸術的ことがら)、歴史や伝説上の有名人]

20世紀と21世紀のスペイン語圏の歴史上の画期的な出来事

[FP プリモ・デ・リベラの独裁とスペインの第二共和制、スペイン市民戦争(「二つのスペイン」の概念)、フランコ時代、スペインの民政移管(特筆すべき人物や出来事、スペイン民政移管においてフアン・カルロス国王の存在が占める重要性や位置づけ)、スペインの民主主義政府(首相、傑出した人物、社会において君主制やその役割にスペイン国民が与える意味)、イスマノアメリカにおける革命(イスマノアメリカの革命にまつわる人物)、20世紀後半におけるイスマノアメリカでの独裁や民主主義、イスマノアメリカにおける現代のゲリラ運動(イスマノアメリカのいくつかの国の社会の中で起こったゲリラ運動が占める重要性と位置づけ]

## 20 世紀までのスペイン語圏の歴史上の画期的な出来事

[FC イベリア半島における最初の民族定住(イベリアの民族の文化芸術に関するもの)、ローマ帝国のイスパニア文化への貢献が占める重要性と位置づけ(スペインにおけるローマ帝国に関するもの)、イベリア半島におけるイスラム教徒支配の時代(イスラム支配の時代に関するもの、スペインにおけるイスラム支配の時代の歴史伝説上の人物)、中世スペイン(レコンキスタの時代の人物)、先コロンブス期(スペイン支配前の文化に関するもの、スペイン支配前文化と関わる人物、イスマノアメリカ諸国の現代社会文化の中にあるスペイン支配前の文化のなごり)、コロンブスのアメリカ到着、イスマノアメリカにおける植民地時代：副王領、スペイン帝国：拡張主義(スペイン帝国の時代の人物)、スペイン史におけるアストゥリアス王家とブルボン王家、ヨーロッパにおけるスペインの覇権の凋落：フェリーペ 4 世とカルロス 2 世の統治、独立戦争と 1812 年憲法、フェルナンド 7 世の絶対主義とカルリスタ戦争、イサベル 2 世の統治、イスマノアメリカの独立(イスマノアメリカにおける有名な人物)、スペインにおける 98 年の危機と植民地喪失]

2.2. 社会文化的出来事と社会文化生活上の人物 [FA スペイン語圏諸国における社会と社会生活にとって重要なことから、スペイン語圏諸国における文化的に重要なできごと、文化や科学、スポーツ分野で国際的に認知された有名人、スペイン語圏諸国において現代社会生活上人気がある人物 / FP スペイン語圏諸国の文化・科学・スポーツにおいて有名な人々、スポーツ分野での出来事、スペインにおける文学や芸術方面での受賞、イスマノアメリカにおける文学や芸術方面での受賞、映画フェスティバル、イスマノアメリカ諸国におけるノーベル賞受賞(医学生理学、文学、平和、化学)、アストゥリアス皇太子賞 / FC 知識階級の亡命、演劇フェスティバル、音楽フェスティバル、マスコミの有名人、フェアとビエナル、編集者と出版社、文化センター、科学技術研究機

関]

### 3. 文化的産物や創造

3.1. 文学・思想 [FA 国際的に認知された文豪や文学作品、世界文学史におけるセルバンテスとドン・キホーテの重要性、文化における文学有名な人物や作品の価値やインパクト：ドン・キホーテという特例、スペイン語で書かれた偉大な文学作品が象徴的に意味するもの / FP スペインとイスパノアメリカにおける有名作家、文学作品内における歴史的な事件の反映(歴史の証しとしての文学作品の価値)、スペイン語圏の文学における登場人物や空間、伝説、文学賞(スペイン語圏におけるノーベル文学賞受賞者、スペイン語で執筆する作家に与えられるアストゥリアス皇太子賞、セルバンテス賞、カサ・デ・アメリカ賞、ロムロ・ガリエゴ賞 / FC スペイン文学史の年表(発生年、大きな動きや傾向)、すなわち『わがシッドの歌』からポストモダン文学まで、イスパノアメリカにおける文学史の年表(発生年、大きな動きや傾向)、すなわち『インディアス年代記』からイスパノアメリカ文学のポスト「ブーム」まで、スペインやイスパノアメリカの小説：騎士道小説から「ブーム」まで、現代のスペインの小説：新しい説話から若手作家まで、現代のイスパノアメリカ小説：ポスト「ブーム」と若手作家、スペインとイスパノアメリカの物語、スペインとイスパノアメリカの文学における随筆、スペインやイスパノアメリカの詩：ハルチャから 20 世紀前半まで、20 世紀後半のスペインの詩、20 世紀後半のイスパノアメリカの詩、20 世紀までのスペインとイスパノアメリカの演劇、20 世紀におけるスペインとイスパノアメリカの演劇、さらにその後のスペインとイスパノアメリカの演劇、他のジャンル、イスパノアメリカ文学におけるスペイン文学の影響とスペイン文学におけるイスパノアメリカ文学の影響、文学における女性の視点とフェミニスト、文芸界と編集マーケット]

### 3.2. 音楽

3.2.1. クラシック音楽 [FA 国際的に認知された音楽家と作品、国際的に認知されたクラシック音楽の演奏家、国際的に認知されたオペラ歌手 / FP スペインやイスパノアメリカで有名な作品やアーティスト / FC スペイン音楽史やイスパノアメリカ音楽史の年表(主な出来事と傾向)：アルフォンソ 10 世の『カンティガス』から電子音楽まで、オペラ(作品、代表的なオペラ劇)、サルスエラ(サルスエラ(サルスエラ)の概念、有名なサルスエラ)、スペインやイスパノアメリカのジャズ(文化マーケットの中でのジャズの統合や大衆化、現地の音楽ジャンルとジャズのフュージョン)、音楽フェスティバル]

3.2.2. ポピュラー音楽と伝統音楽 [FA 国際的に認知されたスペイン語圏の国の歌手や音楽グループ / FP スペイン語圏の有名な歌手や

音楽グループ、ポピュラー音楽や伝統音楽のジャンル / FC スペイン語圏の国の民族音楽、フラメンコ(フラメンコの伝統的なリズム、フラメンコの代表的なアーティスト)、シンガーソングライターや反体制歌、スペインの80年代の「モビーダ」と音楽グループの熱狂的人気(体制移行期のスペイン音楽の展望が刷新される中で「モビーダ」と共に生まれた音楽グループの重要性)、著作権協会、音楽フェスティバル]

### 3.3. 映画・舞台芸術

3.3.1. 映画 [FA 国際的に認知されたスペイン語圏の国の映画、国際的に認知されたスペイン語圏の国の映画監督、国際的に認知されたスペイン語圏の国の男優と女優、世界の映画史におけるルイス・ブニユエルと彼の作品の重要性 / FP スペイン語圏の現代の映画、スペイン語圏諸国の映画史で重要な映画作品、スペイン語圏諸国の代表的な映画監督や俳優、スペイン語圏諸国の映画史の中で傑出しているジャンル、映画の賞、フェスティバル / FC スペイン語圏諸国の映画の起源、スペイン語圏諸国の映画史の各時期と傾向、スペイン語圏諸国の映画産業(老舗の映画製作会社やスタジオ、国内映画の興業の成功)、ワースト映画と監督が脚本にも関わっている映画、ドキュメント映画、短編映画、スペイン語圏諸国の代表的な映画関係者、映画協会]

3.3.2. 演劇 [FA 国際的に認知された劇作家や演劇作品 / FP スペインイスポアメリカの有名な舞台監督や舞台俳優、スペインやイスポアメリカの演劇、主要劇場 / FC 演劇発展に寄与する作品発表のためのスペースとその影響、文学作品、ビジネス、ショーとしての演劇の意味、スペインとイスポアメリカでの演劇の傾向、演劇フェスティバル]

3.3.3. ダンス [FA 国際的に認知されたスペインとイスポアメリカのダンスカンパニー、国際的に認知されたスペイン語圏諸国の代表的ダンス / FP 国際的に認知されたスペイン語圏諸国の振付師とダンサー、スペイン語圏諸国の代表的なその国らしさをあらわすリズムやダンス / FC なし]

3.4. 建築 [FA 国際的に認知されたスペイン語圏諸国の建築作品や建築家 / FP スペインやイスポアメリカの一般建築、スペインやイスポアメリカの宗教的建築物、世界の建築が発展発達する中でスペインやイスポアメリカの有名な建築家が占める重要性や位置づけ / FC スペインにおけるイスラム・スペインの建築(スペイン史の中でイスラム・スペイン建築に与えられる意味)、先コロンブス期の建築(イスポアメリカのアイデンティティの印としての先コロンブス建築に与えられる意味)、現代建築のムーブメント、スペインとイスポアメリカの都市計画、伝統的な家屋]

### 3.5. 造形芸術

3.5.1. 絵画 [FA 世界の絵画の歴史の中でスペイン語圏の世界の主要な絵

画作品が占める重要性と位置づけ(世界の美術の中でのベラスケスの重要性、20世紀の世界の美術の中でのピカソの重要性)、世界的に有名な国内の美術館 / FP 時代別および芸術運動別の代表的な作者や作品、社会生活の中での美術の存在 / FC スペインやイスパノアメリカの美術史年表(重要な運動や傾向): ロマネスク様式の絵画から近年の芸術傾向まで、スペインにおけるバロック絵画(スペイン史の中でのある歴史芸術的な期間の全盛期の反映としてのバロック絵画に与えられる意味、20世紀スペイン絵画の分野で重要かつ代表的な人物としてのゴヤが占める重要性と位置づけ)、イスパノアメリカにおける文化的伝統の回復と再評価の運動としてのインディヘニスモとナショナリズムの重要性、絵画作品の中での政治的社会的な運動の反映、フェリアと展覧会]

3.5.2. 彫刻 [FA 国際的に認知されたスペイン語圏の彫刻家と彫刻作品 / FP 時代別および芸術運動別の代表的な彫刻作家や作品、都市環境の中での彫刻 / FC 先コロンブス期の彫刻、宗教的彫刻、20世紀の彫刻のリアリズム]

3.5.3. 写真 [FA 国際的に認知されたスペイン語圏の写真家と写真作品 / スペインやイスパノアメリカの有名な写真家、写真の展示や写真関係の賞 / FC スペイン語圏諸国の写真の傾向、スペイン語圏諸国の写真史の重要な出来事、代表的な写真誌]

3.5.4. 陶芸と金銀細工 [FA なし / FP 代表的な民衆の陶芸、先コロンブス期の陶芸、スペインとイスパノアメリカのタイル製造 / FC 民衆の陶芸と窯元、スペインとイスパノアメリカの芸術的な陶芸、金銀細工、陶芸や金銀細工、タイル製造についての代表的な博物館]